



ディスプレイの眼

## ディスプレイ憲章

ディスプレイは  
主題を空間に演出する伝達技術である  
われわれは  
企業間の相互理解に立ち  
業界全体の繁栄をはかると共に  
創造に徹し  
技術を磨き  
ディスプレイを通じて  
社会に貢献する

## CONTENTS

ディスプレイの眼 「繋がり」を大切に…	・ ・ 1
2014 年新春セミナー	・ ・ 2
創立 50 周年記念事業 超お祭り。	・ ・ 4
Next HERO わが社の新人紹介	・ ・ 6
東京デザイン巡り 美術館・博物館編	・ ・ 8
第 38 回 東デ協親善ボーリング大会	・ ・ 10
新規加入組合員紹介	・ ・ 11
新春お年玉企画当選者の声	・ ・ 12
編集後記	・ ・ 12

## 「繋がり」を大切に…



先日渋谷ヒカリエのd47 MUSEUMにて開催している『文化誌が街の意識を変える展』を見学しに行ってきました。

日本全国のローカル誌のなかから、その土地の個性を外に向け、広く、真剣に発信しているものを「文化誌」と呼び、47都道府県からそれぞれ1冊ずつ選びだして、自治体が発行する冊子から、企業広報誌まで、有料無料を問わず、その土地の人による、その土地の真剣な思いを発信する情報誌を47の展示台で紹介している企画展でした。

この企画展は、各冊子の内容や特色を紹介するのみならず、「文化誌とはなにか」「なぜ文化誌を発行するのか」といった制作の背景がフォーカスされていて、各地域が抱える課題や未来への展望を浮き彫りにし、日本のこれからを参加者と皆で一緒に考えていく意図が込められていました。

現在広報委員会では東デ協創立50周年の記念誌発行に向けて動いております。学生向けに発行するフリーペーパー型(まだ検討中ですが)と歴史等を纏めた記念誌型という2つの軸で動いております。今回の企画展には、地域を業界に置き換えた時、何か参考になると思い行ってきました。私見ですが、どの文化誌も人との「繋がり」を大切に制作されていると感じました。これから制作する記念誌も当業界及び協同組合を世間にPRし、新たな「繋がり」を形成するコミュニケーションツールに出来ればと思っております。

広報委員 西林 大輔 / (株)インテリアニシダ



表紙デザイン  
萩原充隆 / 株式会社フジヤ

デザインという言葉の持つ汎用性・普遍性を表現。  
ジャンルに囚われず、様々な切り口で街のいたるところにデザインの活躍の場がある様をイメージしました。